

令和2年度 第2回 金沢シビックテック推進協議会

日時：令和2年11月19日(木) 18:30～20:00(予定)

場所：金沢市役所本庁 202 会議（オンライン会議）

次 第

1 開 会

2 審議内容

令和2年度事業執行状況について . . . 資料1

令和3年度以降事業予定について . . . 資料2

3 閉 会

(参考資料)

「地域課題解決マッチングイベント」来場者アンケート結果…参考資料1

シビックテック塾 アンケート結果 …参考資料2

金沢シビックテック推進協議会 委員名簿

(50音順、敬称略)

区 分	氏 名	役 職	備 考
委 員	小俣 博司	オープン川崎 代表	
委 員	真田 秀樹	株式会社アイ・オー・データ機器 社長室室長	
委 員	中沢 実	金沢工業大学工学部情報工学科教授	
委 員	福島 健一郎	一般社団法人コード・フォー・カナザワ代表理事	会長
委 員	布施 安子	NPO 法人子育て支援 さくらっこ 理事長	
委 員	眞鍋 知子	金沢大学 地域創造学類 教授	
委 員	矢後 智子	コードフォー高岡代表	
委 員	谷内 博史	金沢市市民活動サポートセンター所長	
監 事	徳田 伸治	金沢市会計課長	

令和 2 年度事業執行状況について

金沢シビックテック推進協議会

令和２年度 事業進捗状況報告

１ 事業執行状況概要

協議会事業として今年度実施する４事業の進捗状況は以下のとおりである。

（１）地域課題解決マッチング事業

課題募集・アイデア募集・作り手とのマッチングまでを１０月に終了し、年内に企画書を提出してもらい、１月に支援の可否の審査を予定。

また、マッチングされなかったアイデアについて作り手（アプリ等開発者）の再募集を行っている状況。

（２）オープンデータ官民ラウンドテーブル

１０月にラウンドテーブルを開催し、オープン化可となった要望については、データ保有課へオープン化作業を依頼している状況。

（３）シビックテック塾

８月から１０月までの合計３回での開催完了。

（４）情報発信事業

ポータルサイトを構築し、１１月１２日（木）サイト公開。

2 事業執行状況詳細

それぞれの事業の執行状況の詳細については、以下のとおりである。

(1) 地域課題解決マッチング事業

解決したい地域・行政課題を市民や行政から募り、ICTを活用したアイデアを募集する。アイデア提案者と協働制作を希望する作り手をマッチングさせ、開発支援を行う事業。

① 地域課題募集

- ・募集期間：令和2年7月30日（木）～8月26日（水）
- ・募集内容：金沢市の地域課題
- ・応募数：16件（地域課題 13件 行政課題 3件）
- ・審査方法：書類審査（事務局）
- ・選定数：8件（制度的な課題など解決につながらないものを除外）

② アイデア募集

- ・募集期間：令和2年9月10日（木）～9月30日（水）
- ・募集内容：ICTを活用して地域課題を解決するアイデア
- ・応募数：10件
- ・審査方法：書類審査（協議会委員）
- ・選定数：5件（審査基準 ①課題解決力 ②実現性 ③継続性）

③ 作り手（アプリ等開発者）募集

- ・募集期間：令和2年10月12日（月）～10月28日（水）

④ 作り手（アプリ等開発者）とのマッチング

日時：令和2年10月29日（木） 19:00～21:00

会場：IT ビジネスプラザ武蔵 6階 交流室1

内容：アイデア提供者によるプレゼンテーション及び作り手（アプリ等開発者）とのマッチング

作り手参加人数：10名

一般観覧者：12名

当日マッチングされた課題：2件

⑤ 作り手（アプリ等開発者）の再募集

日時：令和2年11月6日（金）～ 11月30日（月）

募集内容：マッチングイベントにて、マッチングされなかったアイデアの作り手（アプリ等開発者）の再募集

【マッチングされた課題】

	地域包括支援センター	「避難者カード」の電子化
課題内容	調べたい住所を検索したら担当地域包括支援センターがわかる検索機能が欲しい	「避難者カード」を電子データで保持し運用できる仕組みが欲しい
課題提供者	1名	1名
アイデア提供者	1名	1名（課題提供者と同一者）
作り手	2名	6名

【マッチングイベントの様子】



(2) オープンデータ官民ラウンドテーブル

オープンデータとしてニーズの高い分野やデータについて、オープンデータ官民ラウンドテーブルを開催し、行政職員及び民間企業や市民等の間で、データの公開要望や公開可否について議論し、オープンデータ公開を推進する事業。

① データ公開要望の募集

募集期間：令和2年9月9日（水）～令和2年10月2日（金）

募集内容：「健康・医療・介護・子育て」分野での活用を想定したデータの公開要望

応募数：4件

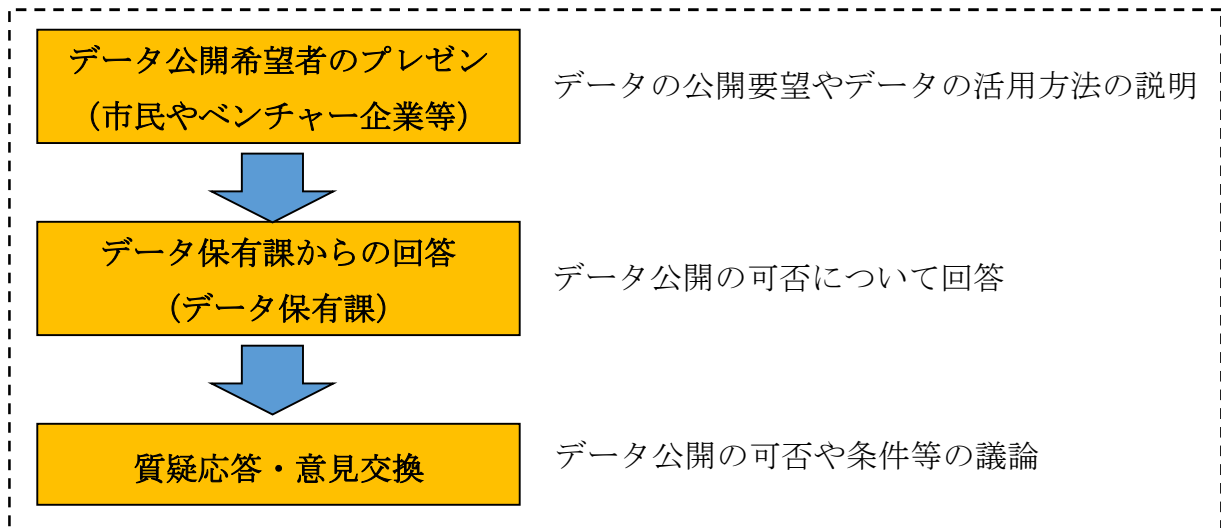
- ・レセプトデータ・特定健診データ・介護データの匿名加工情報
- ・KDB データ（検診・医療・介護に関するデータ）
- ・金沢広域急病センター利用者数
- ・休日当番医情報

② ラウンドテーブルの開催

日時：令和2年10月22日（木） 19時00分～21時00分

場所：ITビジネスプラザ武蔵 6階 交流室1

(進行イメージ)



【オープンデータ官民ラウンドテーブル結果】

対象データ (公開・変更要望)	データ 保有課・関係課	公開の可否
レセプトデータ 特定健診データ 介護データの匿名加工情報	広報広聴課 医療保険課	×
KDB データ	医療保険課 介護保険課	○ (オープンデータではないがデータ提供可)
金沢広域急病センター利用者数に関するデータ	健康政策課	○
休日当番医情報に関するデータ	健康政策課	○

○：公開 △：今後の課題・検討事項 ×：公開不可

【参考：オープンデータ官民ラウンドテーブル当日の様子】



(3) シビックテック塾

アプリケーション開発や地域課題解決に興味を持つ学生・社会人等が、シビックテックの専門家のアドバイスを得ながら、地域の課題解決につながるアプリケーションの開発に取り組むことによる人材育成事業。

① 実施内容等

ノーコードでアプリケーションの制作に最低限必要な知識や技術をオンライン講義・演習の形を通して全3回学習。

募集期間：令和2年7月28日（火）～8月24日（月）

実施期間：

第1回：8月29日（土） 13:00～17:00

第2回：9月26日（土） 13:00～17:00

第3回：10月24日（土） 13:00～17:00

募集対象者：

スマートフォンアプリケーションの開発に関心を持つ人

※年齢不問

※金沢市および金沢市近郊に通勤通学、在住している

募集結果：定員20名（応募者数：28名）

講師：一般社団法人コード・フォー・カナザワ

福島 健一郎氏・雄谷 峰志氏・五十川 員申氏・佐々木 修吾氏

② 講義内容

ノーコードでのアプリの開発環境ツールである glide. を使用し、各受講者が作りたいアプリを講師と相談しながら、スプレッドシートの記入方法など技術的なノウハウを習得。

開催日	内容	時間
8月29日（土）	シビックテックとは（講義）	13:00～13:30
	ノーコードとは（講義）	13:30～14:30
	自己紹介	14:30～15:00
	ノーコードの練習問題	15:00～17:00
9月26日（土）	考えてきたアイデアの発表	13:00～14:00
	プロダクトの作成	14:00～17:00
10月24日（土）	プロダクトの完成を目指す	13:00～17:00

【受講生の作成アプリ例】

	アプリ概要
1	文化祭のスケジュール管理、ゲーム、アンケートを行えるアプリ
2	育友会の旗持ち当番を管理し、確認できるアプリ
3	金沢検定の問題を詰め込み、学習できるアプリ
4	友人との旅行先の管理やメンバー内の情報共有ができるアプリ
5	金沢市近郊にあるスペシャルティコーヒーのお店を掲載し、検索できるアプリ
6	IMAGINE KANAZAWA 2030 パートナーズの企業や団体の取組を紹介するとともに、申込み機能も備えたアプリ
7	金沢市の居宅介護支援施設、金沢市地域包括支援センター、通所介護施設等を一覧で表示させることができる。 また、施設の住所、電話番号、営業時間なども閲覧することも可能なアプリ

【受講生のアプリ例】

「断密祭～『NO 密』だけど『濃密う』～」 金工祭公開アプリ

新型コロナの影響で、一般公開できなくなってしまった文化祭。「公開できないなら、公開できるアプリを作ってしまう！」をコンセプトに、PC 検定部 3 年生(電子情報科)が「文化祭公開アプリ」として制作しました。学校紹介から、イベント情報、文化祭で実施するクイズやアンケートの集計までを、アプリに盛り込まれています



【シビックテック塾の様子】



（４）情報発信事業

「シビックテックポータルサイト」を立ち上げ、シビックテックの事例や他都市の事例などを掲載し、本市が積極的にシビックテックの情報発信をする事業。

また、シビックテック人材バンクを今後立ち上げ、人材交流に活用する予定。

公開日：令和２年１１月１２日（木）

掲載内容：

１．協議会事業

- ① 金沢シビックテック推進協議会事業とは
- ② 地域課題解決マッチング事業
- ③ オープンデータ官民ラウンドテーブル
- ④ シビックテック塾

２．シビックテック人材バンク

- ① シビックテックプレイヤー応募フォーム
- ② シビックテックプレイヤー一覧・検索機能

３．事例集

- ① 全国各地のシビックテック取組み事例
- ② 全国のシビックテック団体の提供サービス（Web・アプリなど）

４．シビックテック関連リンク集

- ① 全国の Code for 団体及び関連団体の紹介
- ② オープンデータ関連サイト紹介

5. お知らせ

① 金沢シビックテック推進協議会事業についてのお知らせを随時更新

【TOP ページ画面】



協議会事業シビックテック人材バンク事例集シビックテック関連リンク集お知らせ

金沢シビックテック推進協議会事業とは

トップ > 金沢シビックテック推進協議会事業とは

金沢シビックテック推進協議会について



シビックテックの推進を図ることで、金沢市において、市民や行政のニーズに即した地域課題の解決につながるアプリケーションやサービスが提供されるようになることを目的としています。

イベント情報などをSNSで発信しています
[金沢シビックテック推進協議会Facebookはこちら](#)



協議会事業シビックテック人材バンク事例集シビックテック関連リンク集お知らせ

シビックテック人材バンク

トップ > シビックテック人材バンク

各地域でシビックテックに関わる方々をシビックテックプレイヤーとして紹介します。準備が出来次第、掲載していく予定です。

あなたも活躍する プレイヤーになりませんか？

登録プレイヤー募集中!!



応募はこちらから

プレイヤーを探す

検索

令和 3 年度以降事業予定について

I 中期事業計画（案）

事業遂行によるあるべき姿

地域課題を解決しようとするプレイヤー（課題提案・アイデア考案・アプリ等開発者）が増加して、そうした取組が浸透すること

第一期（令和 2 年から令和 4 年の 3 カ年）

- 1 基本として、次の 4 事業を柱として展開（事業のブラッシュアップは毎年度実施）
 - ・ 地域課題マッチング事業
 - ・ オープンデータ拡充事業
 - ・ 人材育成事業
 - ・ 情報発信事業
- 2 4 事業を推進するために必要な基盤の整備
 - ・ オープンデータ推進のためのポータルサイトリニューアル（市直接事業）
 - ・ 人材交流のための人材バンクデータベースの整備（協議会事業）

II 今後の取組

委員の人の関わりをもっと深めた方がよいとの委員意見から次の取り組みを実施したい。

- 1 各委員の方々が意見交換をしやすいようにfacebookグループを作成
- 2 年 2 回の正規協議会以外に、年数回希望者が意見交換するようなオンラインミーティング会議の開催

Ⅲ 令和3年度 事業計画（案）

金沢シビックテック推進協議会事業として、引き続き次の4事業を柱に実施予定。

1 マッチング事業（地域課題の掘り起こし・課題解決）

解決したい地域・行政課題を市民や行政から募り、ICTを活用したアイデアを募集する。アイデア提案者と協働制作を希望する作り手をマッチングさせ、開発支援を行う。

R2 課題 16件 アイデア 10件 マッチング 2件

2 オープンデータ官民ラウンドテーブル事業（オープンデータ拡充）

オープンデータとしてニーズの高い分野やデータについて、オープンデータ官民ラウンドテーブルを開催し、行政職員及び民間企業や市民等の間で、データの公開要望や公開可否について、議論する場を設ける。

R元 テーマ：「交通・移動・まちづくり」分野 応募:6件 公開:1件

R2 テーマ：「健康・医療・介護・子育て」分野 応募:4件 公開予定:3件

3 シビックテック塾開催事業（人材育成）

アプリケーション開発や地域課題解決に興味を持つ学生・社会人等が、シビックテックの専門家のアドバイスを得ながら、地域の課題解決につながるアプリケーションの開発に取り組むことにより、スキル向上やシビックテックの周知を図る。

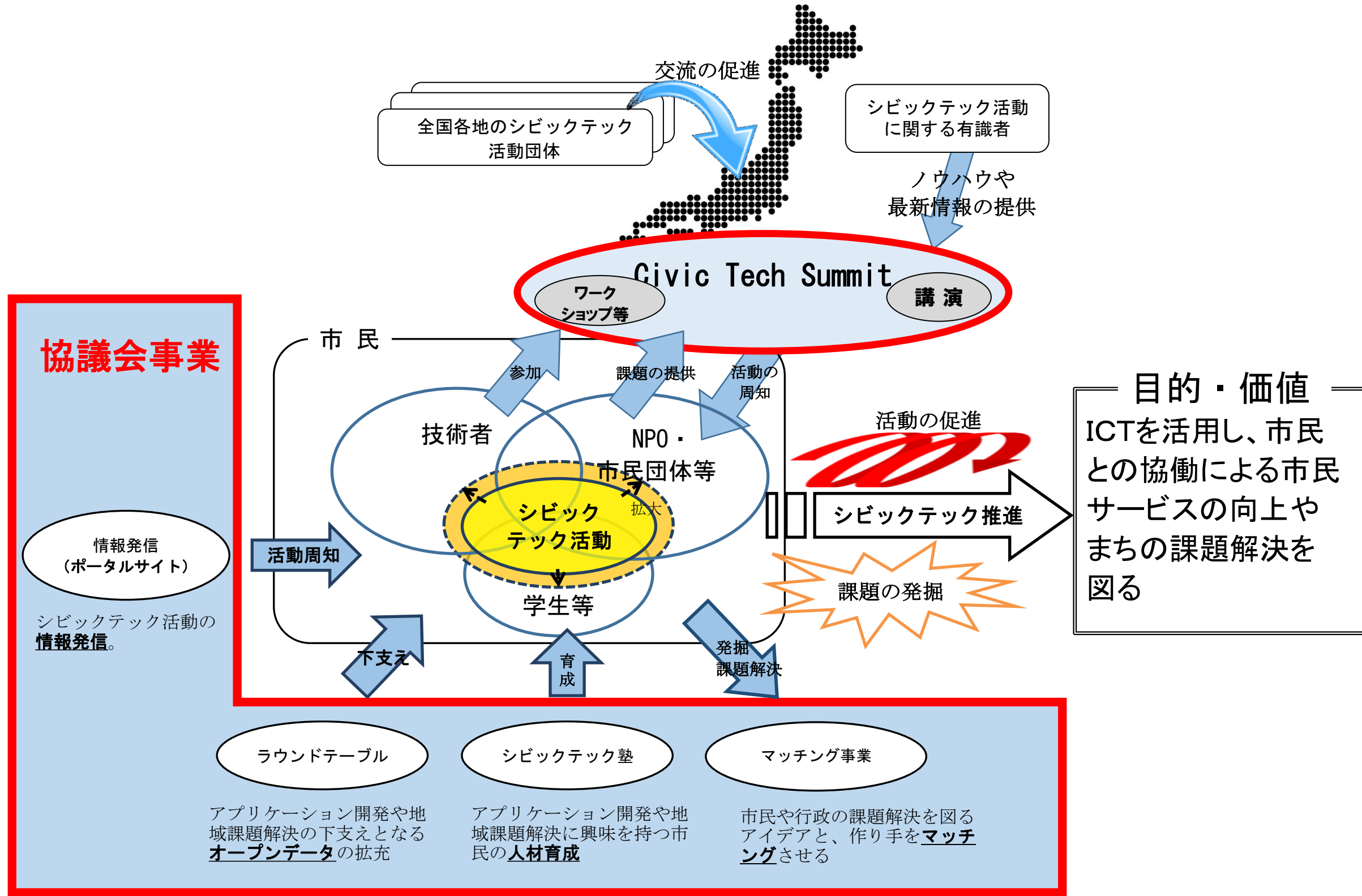
R2 定員:20名(高校生:1名 大学生:3名 社会人:16名) 応募:28名

4 情報発信事業

「シビックテックポータルサイト」を活用し、金沢ゆかりのシビックテックの事例や他都市の事例などを掲載し、本市が積極的にPRする。

R2 ポータルサイトの構築 R3 シビックテック人材バンクの充実

ICTを活用した市民協働（シビックテック）の推進について



令和２年度 第２回金沢シビックテック推進協議会

日時 : 令和２年 11 月 19 日(木) 18:30～20:30

場所 : 金沢市役所 2 階 202 会議室

出席者 : 小俣 博司 オープン川崎 代表

真田 秀樹 株式会社アイ・オー・データ機器 社長室室長

中沢 実 金沢工業大学工学部情報工学科教授

福島 健一郎 一般社団法人コード・フォー・カナザワ代表理事

眞鍋 知子 金沢大学 地域創造学類 教授

矢後 智子 コードフォー高岡代表

谷内 博史 金沢市市民活動サポートセンター所長

司会) それでは初めに、情報政策課長から挨拶を申し上げます。

情報政策課長) テクノロジーで地域の課題を解決する「シビックテック」は、新型コロナウイルスの感染対策での感染情報を見える化するなど、様々な取組が注目されたあと、紙面で取り上げられることも多くなっていると感じております。

シビックテックは、市民の視点からの行政・公共サービスの効率化や利便性の向上のほか、今までにない新たなサービスの創出が可能となるばかりでなく、テクノロジーを駆使した市民の行政への参加や、行政機関の透明性・説明責任の向上などにつながり、今後の行政の在り方を変革する推進力となる可能性を秘めていると考えております。

金沢では、コード・フォー・カナザワが全国の先陣を切ってコードフォー団体を立ち上げていただいたおかげで、金沢市としても早くから取り組みを始めることができました。また、本年度からは当協議会を立ち上げさせていただき、委員のみなさまのお力をいただき、さらなるシビックテックの促進を図って行きたいと考えております。

本日は、6 月に第 1 回の協議会を開催してから、約半年が過ぎ、協議会事業もマッチング事業以外は、大半は終了した状況でありますことから、その執行状況の報告と来年度以降の事業について、みなさんに忌憚のないご意見をお伺いいただければと思います。

結びに、今回を含めこの協議会での実りある議論が、今後の金沢市のシビックテックを促進し、より働きやすく、豊かさを実感できる社会の実現に繋がることを期待いたしまして簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

司会) それでは、早速本題に入ります。

議長) お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

今ほど松本課長の方からご挨拶の中でもあったように、6 月に第 1 回を開催してから半

年経ち、協議会の進捗がわからない方やひょっとしたら忘れていらっしまったかもしれませんが、この半年間いろんな事業が行われております。

6月の頃も新型コロナが大変でしたけども、今日もかなり感染者数も増えてそういう意味では大変な情勢になっているかと思います。ただ、シビックテックはそのような危機の際に活躍する力でもあり、東日本大震災は関東などのシビックテックのきっかけだったと言われるように、今回の新型コロナ禍ですごく注目されて、6月以降もいろんな活動が行われております。

台湾もかなり注目されて、オードリー・タンさんは日本のいろんなIT系のイベントに呼ばれて日本でたくさん講演されております。もちろんライン参加という形でしたが、ブームと言えるほど、以前よりシビックテックという言葉が、様々なところに出始めてきているということを感じています。それが少しずつ浸透するきっかけになったらいいなというふうには考えていますが、ブームで終わってしまうともったいないので、ぜひ金沢ではブームではなく足元にしっかりと足をつけてやっていきたいなというふうに思っています。

本日は、その半年間行われた事業について報告がありますので、それについてディスカッションしていきたいと思っておりますが、その内容はもちろん、それ以外のことでも、シビックテックはこのようにしていけばいいのではないかなど、少し広い議論でも結構ですので、ぜひ皆様からいろんなお知恵ご意見等いただけたらと思っております。

そうしましたら、進めていきたいと思っております。

令和2年度の執行状況について及び令和3年度以降の事業予定について、資料がありますので、事務局からその資料等の説明お願いいたします。

事業計画書参照

議長） 皆様からご意見等をいただいて、ディスカッションをさせていただければと思います。

まず地域課題解決マッチング事業について、少しご意見がありましたらいただきたいと思いますが、何かご意見等ある委員の方、いらっしますでしょうか。

委員） マッチング事業でいろいろ課題が上がってきたと思いますが、当初金沢市が想定していたものと異なる課題はあったか。

事務局） 例えば制度的に解決しようのない課題や、カラスの被害を受けているというような課題に関しては行政側で判断させていただいた。

委員） 来年度のマッチング事業に関してはそのような課題への対応が一番始めのスタートであり、実際にエンジニアの方々がいないということが来年度に向けて考えていく必要があるのかと思っています。

委員) 課題解決を模索している熱い現場の声をより反映させるため、課題提供者とアイデア提供者がもっと事前に時間を取り、丁寧に聞き取りして現場のニーズに応えられることは必要かと思います。

委員) そこを上手く伝えられるかどうかはなかなか難しかったりするので、そこがうまくマッチングをするために少し工夫があるといいですね。

委員) あとシビックテックという括りでいうと、課題と思っている人も実はテクノロジーとか関係ないと思っている人が結構いたりするので、もしかしたら課題を募集するときそういったところ以外からも取れるような何か仕組みがあるといいのかなと思います。

エンジニアから見ると、「それだったらこんなことができる」というようなアイデアも出てくるので、そういったような形の課題の出し方があると良いような気がしました。

事務局) 実はアンケートの結果の方にも、今おっしゃられたような意見が上がっていて、「課題提供者とアイデア者のマッチングをもっと丁寧にしたい」や、「課題提供者とアイデア提供者が事前に打ち合わせする場を設けた方がいいのでは無いか」など、アイデアを出した人と、課題を出した人との間の意識共有というような場を設けた方が良かったのでは無いかと感じています。

委員) 先ほどの応募係数 16 件に対して、例えばカラスをどうにかして欲しいなどを、行政の方で判断して落とした件ですけれど、行政がやっぱりそういう判断出来ないのでは無いかと思います。

法律を変える要望だとこれは無理ですというのはあるかもしれないけれど、例えば、どこの地域に今カラスがたくさん来ていますという情報を、それぞれの市民がデータを入力していくこととかも考えられると思うんですね。そうすれば、いつもいるカラスがこっちからこっちに移動していますねという話もできると思うので。

本当に頭ごなしに市民からの課題を、そういうものは取り扱えませんと判断することは出来ないのでは無いかというのがまず一つです。

それから、私たちが今回審査をしたわけですが、審査の過程を経て、応募数、10 件から 5 件選んで最終的にマッチングが 2 件というのはいかにも少ないわけで、私たちが審査をする意味があったのでしょうか。そのまま、マッチングイベントに出したなら、もっとマッチング数も増えたかもしれないですし、一つの案件について、二人の開発者が開発してもいいわけだし、最終的にマッチングの数をふやして、シビックテックをより広めることが重要なので、そこはちょっと来年度以降ご検討いただいた方がいいのではないかなというのが私の意見です。

事務局) 確かに、マッチングのところでの時間を考えてしまい、ある程度の件数に絞りたいという意向があったこと、そして ICT を活用してできるかできないかというところの判断を行政側でおこなったことは来年度以降の検討すべき箇所と認識しています。

委員） 点数制の審査に関して、その点数を皆さんが何に入れたのかなど全然見えませんでしたし、本当は公開でオンラインで我々が会議してもいいぐらいですので、その話をまたいろんな人が聞いているだとか、そういうそのオープン性みたいなものをやってくかつてことはとても今回重要だったのではないかと思います。そうすることでいろんな人がもっと巻き込まれてくるという可能性を感じています。

また、結局どのようなものが残っていたかという、あらかじめICTでこんなアプリができればいいなというものがはっきり見えるものは残って行きやすかったのかなと。ただ一方で、これまでにないものは選ばれにくかったのかなという感じがして、果たして本当にこう絞り込むことがいいのかというのは、僕も感じていたところです。

審査に関しても、マッチングイベントなど一緒に出席してやるのかなと思っていましたし、また、委員の関与がどこまでなのか事前にわかってなかったのも、一体自分が何をジャッジすればいいのかというのがちょっとわかりづらかったです。それから最後のマッチングイベントでも何かコメントできたりするのかと。

あと3点目、そういう意味で、市民がコミュニティーで困っていることって、これがICTでどうにかなるのかって思っていない人が本当多いと思うんですよね。やっぱりなかなか普段の意思決定プロセスに参加しづらい、その地域の中の女性だとか子育て世代に対して、人達のニーズが可視化できるという意味では、町会連合会とかの事務局の人にも入ってもらうとか町会長経験者の人にも入ってもらうとかですね。

議長） 今意見があったように協議会に多様な方が入られているのに、協議会の委員の方の持っているスキルだったりとか、関係性・人脈だったりとか一緒にやっていくことが多くなかったという面は反省だなと思っています。

あとオープンな審査は確かにいいなと思いますね。実際そういうふうになっているイベントとかもありますし、そういった意味でオープンな審査もいいかもしれないというふうには思いました。

議長） 続いてですね、二つ目の事業オープンデータ官民ラウンドテーブルになりますがこちらの方で何かご意見や、何かある方いらっしゃいますでしょうか。

委員） これを要求している人たちは何をするためにこれを要求したのでしょうか。

事務局） まず一つ目のレセプトデータの匿名加工情報は、要望者は企業の方でしてこのようなデータを取得することで、高齢者向けのサービスのビジネス活用につなげていきたいというような活用方法になっております。

2番目のKDBデータに関しては、リハビリテーション職の人材育成や事業の即戦力を効率よく育成するというような使い方をしたいとの要望されております。

3番目の広域急病センターの利用者数に関しては、コロナ禍ということで感染対策などに繋がるのではないかと。

4 番目の休日当番医に関しましては、既に白山と野々市で休日当番医を掲載しているアプリがあるため、この機会に金沢市も追加したいとの要望がありました。

委員) こういうデータを出して欲しいって、なかなか市民の方がそう使えるってわからないので、どうしても事業者の方に偏るのだろうなっていうのが、ちょっと今の感触です。

議長) 企業さんの応募ももちろんあっていいものだと私は個人的には思っていますが、そもそもデータ利活用に長けている人は、今回のようにこのデータがあればこんなことができるから欲しいといえるが、わからないとその通りだなと思うんですね。

結構そういう意見はコード・フォー・カナザワでも出ていて、それをどうやってうまく導けるようにするのかっていうのを確かに考えたいですね。

少し簡単じゃなさそうな気もしますが、オープンデータ官民ラウンドテーブルという枠組みは、国の枠組みを真似させてもらってやっている事業かと思いますが、決まっている枠組みではない形でちょっと考えないといけないのかもしれないですね。

委員) 今のこの応募件数 4 件のデータを見ていると、研究者が欲しいデータが結構含まれているんですね。重要なのは、最終的には金沢市民にどのように目に見える形で還元ができるか。

こういうデータを出してくださいということを言われる前に出していける金沢市であればとてもいいと思いますし、例えば研究の論文の中で「これは金沢市のオープンデータを使って、こういう分析をしました」というようなことをきちんと書いていただくことで、金沢市民の健康や保健の情報を、誰がどんなふうに使っても、そのことが金沢市の、市民の健康の向上に繋がるのでは無いかと思います。

そういうふうに見える化するということが重要なんじゃないかなっていうふうに感じました。

議長) ありがとうございます。

今のお話聞いて、Google が新型コロナの感染予測のサービスを突然公開して、12 月の中頃には感染者がとんでもない数になっているのでは無いかというグラフが出ていたが、あれも厚生労働省が出しているオープンデータを利用しましたというように発表されていて、やっぱりそういうふうに、使える人たちは使っていく、出せるものはだしていく形になるといいですね。

議長) 他よろしいでしょうか。

委員) データは、出すことによって意外な使い方をされることが多い。ただ、こういう方式でやると、やりたいことがある人しかデータをくださいと言えないので、これとは別にそういった、まず課題などから見て「こういうことをするためにはどうするのが必要か」というようなアプローチをする仕組みを別に作ってもらったほうがいいと思います。

議長) ありがとうございます。

そうしましたら、(委員) さんからもご意見いただいているのでちょっとご紹介しておきます。

市民はどのようなオープンデータの公開を要望しているのか、テーマを限定せずに開催前に探してみるのも一案かなと思います。

議長) そうしましたらシビックテック塾に移ります。

委員) 先程のマッチング事業がうまく関わって、何か課題を持っている人は自分で勉強して作るという感じで回ればいいなと思ったが難しいものなののでしょうか。

事務局) 今回参加された中には、課題を持って参加されて、アプリで解決するような方の中にはいらっしゃいました。

議長) ちなみにこのシビックテック塾でアプリを作られた方が、マッチングイベントで開発者として出席していただいたりもしていたため、そういう育てた方々が作り手として入ってくるっていうのはいいなというふうに私も感じていました。来年度は、もう少し余裕を持ってスケジュールに組み込めるような形であったり、作り手として参加しやすい工夫をしたらいいのではないかと思います。

委員) 今回のシビックテック塾の参加者と、これまでのアプリ開発塾で来ていた方々とは何か違いが出たのか。

事務局) アプリ開発塾は学生限定だったが、今回は社会人経験者が多かった。また、プログラミング経験の無い方の割合が多かった。

委員) 工大生からするとそこにあえて参加する意義みたいなことをちょっと考えてしまう学生がやっぱり多かった。

昨年までのアプリ開発塾に比べたら少し魅力が下がったかもしれない。

議長) ありがとうございます。

アプリ開発塾とは考え方が異なり、アプリ開発塾はエンジニアの育成であるのに対して、シビックテック塾はシビックテックのなり手を増やすことを目的としているため、工業大学の学生からすると魅力は落ちるかも知れないが、逆にそうでない学科の学生が来てくれるのはいい機会になる。

委員) 簡単なわかりやすい方法で教えたという割には、受講生には非常に難易度が高いようなアンケート結果が出ているが、これについてはどういうふうに解釈できますでしょうか。

事務局）内容的にノーコードでアプリを作ること自身には、そんなに難しさは無かったのかも知れないが、実際オンラインと言う部分に少し要因があったのでは無いかと考えています。

議長）講師の1人として受け持たせていただいて、実際に作られたものを見ると、難しかったと答えていますがアプリはつくれているんですね。なので、確かに難しかったのだろうが、やれていたっていうところは、今後継続が続くかというところのフォローアップは必要となってくると思います。

委員）千葉の流山では、ムクドリがすごく集まって、すごく嫌だなと思っている主婦の人たちが自分達で集まってそれを何とかしようとしていて、多分、来年あたりにそのムクドリがどこに集まったみたいなアプリを作る予定にしている。そういった課題がある人がそれを作るような仕組みを作ってあげるといいかもしれない。

議長）ありがとうございます。

時間の都合上、4つ目の事業「情報発信事業」に関して意見のある方は、事務局までご連絡お願いいたします。

議長）以上で事業に関する意見交換は終了しましたが今回のこの事業を踏まえてのご意見でもいいですし、この事業と関係のない部分で、こうやるべきじゃないのかなどありましたら、お聞きしたいなと思います。

委員）市民と行政との協働という授業をしている中で、協働の一つの事例として、コード・フォー・カナザワが作ったごみなしアプリのことを説明しました。学生はほとんどそのことを知らなくて、「そんないいものがあるんだったら早速入れます」「使いたいです」「いつもすごく困っていました」という声がすごく多かったです。

シビックテックでやっていることを、もっと市民に知ってもらう必要があり、今回のいろんな事業もやっぱり参加者は一部の方に限定されているため、もっとこういう試みや実際の成果物を市民に知ってもらうような施策をしていただきたいと思います。

議長）ありがとうございます。

シビックテック推進協議会は情報政策課の事業という形だが、本来シビックテックはどの原課にも関係があることで、そういう意味では横断的に、市全体としてシビックテックを広めていく必要があると思います。

委員）昨年度はアーバンデータチャレンジという取り組みの中で、パブリックコメントを募集出来るアプリがあったがその取り組みについてはどのように発展するのか意見をお願いします。

議長） もちろんあれ自体はいいアイデアだと思うが、新型コロナになってイベント自体がちょっと止まっている状態だったりします。ただ忘れていていけないため、（委員）さんの期待の声もぜひ伝えて、ぜひ続けていけるような、もしくは（委員）さんなどにもご協力いただきながら何か進められていいかなというふうに思います。

議長） たくさんのご意見いただいて、来年度行っていくこと、また、検討しなければいけないこともたくさんいただきましたので、ぜひできることを来年度もっといい形でシビックテック推進できたらなと思っています。

あと事務局の方には今のご意見なども参考にさせていただきながら、来年度反映させていただけたらと思っております。

事務局） 協議会の皆様におかれましては、貴重なお時間をいただきまして、ご審議を賜りまして誠にありがとうございました。

皆様からいただいた貴重なご意見を参考にさせていただきまして、取り組んで参りたいと思います。

ありがとうございました。